基礎研修2

生活行為向上マネジメント演習

Ver.20150914

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト
基本構築チーム：基礎研修実行支援班

本科目のねらい

<u>事例演習を通して、以下を理解する</u>

① 生活行為向上マネジメントのシートの使い方

② 生活行為の希望を聞き取るための面接技法

③ 対象者の生活行為の目標を、一定期間で達成できる具体的な内容としてイメージするためのアセスメント方法

④ 生活行為の工程を分析する方法と重要性

⑤ 目標の生活行為に焦点を当てたプログラム立案の考え方

⑥他職種との連携や社会資源を活用することの重要性

内　容

Ⅰ　支援の流れと各シートの記入方法について

◆演習１

Ⅱ　グループ演習

１．演習事例紹介

２．生活行為聞き取りシートの作成

３．生活行為アセスメント演習シートの作成

４．生活行為向上プラン演習シートの作成

５．発表と解説

Ⅲ　事例発表・事例登録に向けて

Ⅰ　支援の流れと各シートの記入方法について

生活行為向上マネジメントを構成するシート

メインシート

①生活行為聞き取りシート

②生活行為アセスメント演習シート

③生活行為向上プラン演習シート

サブシート

④興味・関心チェックシート

⑤生活行為課題分析シート

⑥生活行為申し送り表

シート①～③を一つにまとめた

生活行為向上マネジメントシート

生活行為向上マネジメントの流れ

①生活行為聞き取りシート
- 生活行為の目標を聞き取る

思いつかない ⇄ **④興味・関心チェックシート**

↓ 各評価の実施（BI,FAI,HUI,老研式）

②生活行為アセスメント演習シート

⑤生活行為課題分析シート

- 目標の生活行為がうまくできない原因などをICFにそって分析
- それらの要因を今後どのように改善できるかを予測する

⇨ 実現可能な生活行為を「合意した目標」として設定

⇨ 生活行為聞き取りシートに転記し実行度・満足度を聞く

↓

③生活行為向上プラン演習シート
- 目標の生活行為の工程を分析する
- 分析に基づき、必要なプログラムを立案

→ **⑥生活行為申し送り表**

①生活行為聞き取りシート

対象者のしたい・望む生活行為を具体的に聞き取り，シートに記入する.

★聞き取りの前に対象者の職歴や家族構成、家庭での役割、かつての趣味、楽しみにしていたことなど、対象者がどのような生活を送っていたのかを確認しておく

㊂聞き取り方㊂

　あなたが困っている、または問題を感じている（もっとうまくできるようになりたい、あるいは、うまくできるようになる必要があると思う）事柄で、良くなりたい、改善してみたいと思う事柄があれば２つほど教えてください

キーパーソンの部分には，家族や支援者等で，対象者にできるとよい，できるようになって欲しい生活行為を具体的に聞き取る.

対象者の本音を探る

表層
答えた方がいい
と思う生活行為
世間体
見得
諦め
妥協
しなければならない
生活行為
義務
周囲の期待
興味
本当に
希望
したい生活行為
生き様
本音

「手を動かせるようになりたい」などの機能的な目標ではなく、その先にある「どんな生活行為をしたいのか」を聞き出す

例）　対象者：歩けるようになりたい
　　OT：歩けるようになったら、具体的にどんなことがしたいですか
　　対象者：歩けるようになったら、トイレに自分で行きたい。また旅行に行きたい。

- 生活行為の目標に気持ちが向かない場合
  → ④興味・関心チェックシートを活用する

④ 興味・関心チェックシート

- 46項目の生活行為が記載されている
- 本人に記入してもらうか、スタッフが聞き取る

生活行為	している	してみたい	興味がある	生活行為	している	してみたい	興味がある
自分でトイレへ行く				生涯学習・歴史			
一人でお風呂に入る				読書			
自分で服を着る				俳句			
自分で食べる				書道・習字			
歯磨きをする				絵を描く・絵手紙			
身だしなみを整える				パソコン・ワープロ			
好きなときに眠る				写真			
掃除・整理整頓				映画・観劇・演奏会			
料理を作る				お茶・お花			
買い物				歌を歌う・カラオケ			

MTDLP:生活行為向上マネジメント　マニュアルp18

④ 興味・関心チェックシート

各項目の記入方法

（1）現在している場合　⇒　しているに〇
（2）していない場合
　①してみたい場合　⇒　してみたいに〇
　②興味がある場合　⇒　興味があるに〇

これを行うことで、どんな生活行為を目標にするか思い浮かびやすくなる

再度 ①生活行為聞き取りシート へ

演習1 「生活行為の聞き取り①」

- 利用者役とセラピスト役に分かれて聞き取りの練習をします。
- 利用者は、障害のため主要な生活行為ができなくなっています。しかし今まで、「手足をよくすること」しか考えてなかったので、すぐには具体的なことが思いつきません。
- セラピスト役の人は、会話でニーズを引き出しながら、課題となる生活行為を聞き取ってみましょう。
- 10分ほどやったら、利用者役の人は建設的なフィードバックを5分ほどしてみてください。

ヒント

- 機能回復を志向する場合でも、手足が動いたらどんなことがしたいのか伺ってみる。
- 主要な生活行為が聞けても、そこで終わらずに、具体的にどのようにやっていたのか、やってみたいのか聞いてみる。
- 課題となる生活行為のどの部分ができて、どの部分はうまくできないと考えているのか聞いておく。
- その生活行為ができるための準備となるような生活行為が可能なのか確かめる。

演習1 「生活行為の聞き取り②」

- こんどは役割を交代します。
- 利用者は、障害のため主要な生活行為ができなくなっています。しかし今まで、「手足をよくすること」しか考えてなかったので、すぐには具体的なことが思いつきません。
- セラピスト役の人は、興味・関心チェックシートを使って、課題となる生活行為を聞き取ってみましょう。
- 10分ほどやったら、利用者役の人は建設的なフィードバックを5分ほどしてみてください。

②生活行為アセスメント演習シート

◎聞き取った生活行為目標について

☆その遂行を困難にしている要因

☆現状の能力（強み）の検討

☆予後予測を行い

本人が達成できる生活行為

（合意した生活行為の目標）を決定する

◎評価にあたっては ⑤生活行為課題分析シートを活用する

MTDLP:生活行為向上マネジメント　マニュアル p18

⑤生活行為課題分析シート

◎対象者の望む生活行為に関連した要因のみに目を向けるのではなく，改善の余地のあるADLやIADLも見落とさないようにする

◎解決すべき課題（生活行為）を設定するための思考過程を現わす

●アセスメント項目

対象者への介入の前に，下記評価指標を用いて，活動と参加 の評価を行う。

ADL；Barthel Index（BI)

IADL：改訂版Frenchay Activities Index（改訂版FAI）

社会参加：老研式活動能力指標

→評価の際に，現状能力と実行状況を把握する。

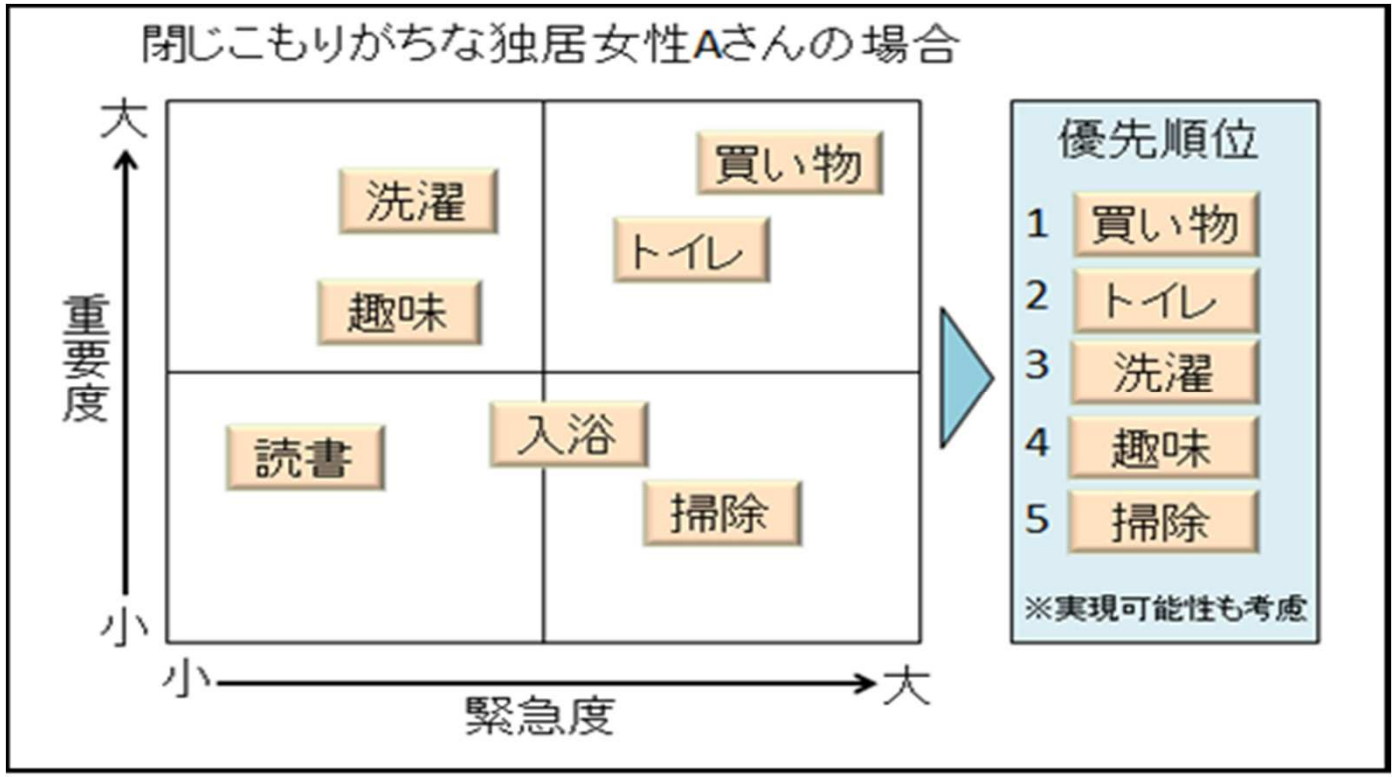
⑤生活行為課題分析シート

- 現状能力
  各生活行為の項目をプルダウンリストから選択.
  評価時に把握できていない場合は,「未把握」を選択.
  家族や他職種からの情報も得て記入する
- 予後予測
  「このまま推移」には, MTDLPを実施しない場合に
  各アセスメント項目がどうなるかを予測して選択.
  「介入後」には, MTDLPによる支援を受けた場合の
  各アセスメント項目を選択.
  入院・入所中は, 在宅生活に戻った場合にどうなるか
  を想定して記入する.

⑤生活行為課題分析シート

●課題重要性の検討

予後予測の「このまま推移」と「介入後」との間にギャップがある生活行為が解決すべき課題となる.
重要度と緊急度を考慮した上で，解決すべき課題（案）を複数設定し，優先順位を数字で記載する.



⑤生活行為課題分析シート

●課題の要因分析

WHYを繰り返して根本原因を把握する

MTDLP:生活行為向上マネジメント　手引きp24

②生活行為アセスメント演習シート

目標の生活行為を行えない原因を分析し、予後を予測

アセスメント項目		心身機能・構造の分析 （精神機能,痛み・感覚,神経筋骨格・運動）	活動と参加の分析 （運動・移動能力,セルフケア能力）	環境因子の分析 （用具,環境変化,支援と関係）
生活行為を妨げている要因 （ICF コードを併記）		身体機能の麻痺や可動域・筋力 認知・高次脳機能 感情や性格	目標に関連する活動や参加の状態 例：10mしか歩けない トイレ動作が介助	ハード面 例:家から店が遠い ソフト面 例：家族の過介助
生活行為目標達成可能な理由と根拠	現状能力（強み） （ICF併記）	目標に関連する身体機能、精神機能の良い点	している活動や参加のプラス面 例：車いす自操可能 ベッド上動作可能	修正可能なハード面 協力・理解のあるソフト面
	予後予測	身体機能、精神機能の改善・変化予測	どこまで活動や参加ができるか予測 例：手すりがあればトイレでの排泄可能	環境の改善や修正後にできる活動などの見込み

②生活行為アセスメント演習シート

アセスメントによる予後予測と課題の要因分析を参考に
本人から挙がった目標を、3ヶ月程度で達成できそうな
合意した目標（具体的な生活行為）としてイメージする

生活行為目標（聞き取り表から転記）		合意した目標（聞き取り表へ）	

アセスメント項目	心身機能・構造の分析（精神機能痛み・感覚神経筋骨格・運動）	活動と参加の分析（運動・移動能力,セルフケア能力）	環境因子の分析（用具,環境変化,支援と関係）
生活行為を妨げている要因（ICF コードを併記）			
生活行為目標達成可能な理由と根拠			

この際に、対象者・キーパーソン・作業療法士間で協議し、目標のすり合わせを行い、具体的な生活行為の目標を設定

生活行為聞き取りシートの実行度・満足度

- 目標とする生活行為【合意目標】に対して、現在の実行度と満足度を1～10点で聞き取る
- さらに、その目標を達成できると思うかどうかを、本人に答えてもらう（OTが判断するのではない）

生活行為の目標	自己評価	初回	最終
□A(具体的に生活行為の目標が言える) 目標１	実行度	/10	/10
	満足度	/10	/10
合意目標：	達成の可能性	□有 □無	
□A(具体的に生活行為の目標が言える) 目標２	実行度	/10	/10
	満足度	/10	/10
合意目標：	達成の可能性	□有 □無	

実行度：十分できている10点　全くできていない1点
満足度：十分満足10点　全く満足していない1点

MTDLP:生活行為向上マネジメント　マニュアルp17

⑤生活行為課題分析シート

●課題解決目標

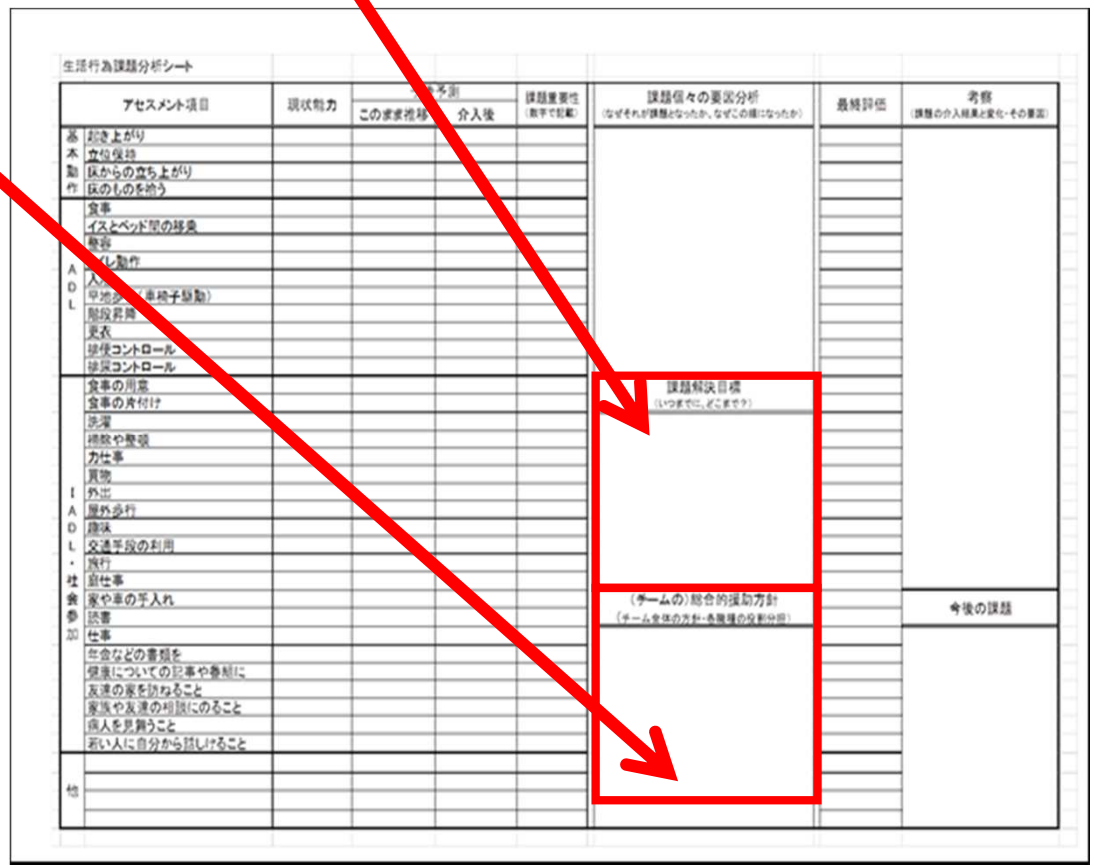
合意した生活行為の目標（課題）を達成するために，段階づけた解決すべき生活行為の小目標を設定

・合意した目標→長期目標（3ヶ月）

・小目標→短期目標（1ヶ月）

●チームの総合的援助方針

課題解決目標の達成に向けた<u>支援チームの全体の方針と各職種の役割分担</u>を記載



③生活行為向上プラン演習シート

生活行為向上マネジメント™

生活行為向上プラン演習シート

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿年齢：＿＿＿歳　性別（男・女）　記入日：H＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

合意した目標	生活行為工程分析	達成のためのプログラム		基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応プログラム
合意した生活行為の目標	企画準備力 PLAN					
	実行力 DO					
	検証完了力 SEE	いつ・どこで・誰が支援して行うか	本人			
			家族			
			支援者			
	達　成	【結果サマリー】		□達成　□変更達成　□未達成（理由：　　）　□中止		

その生活行為を行うときに、必要な能力を列挙する

MTDLP:生活行為向上マネジメント　マニュアルp21

この著作権（著作人格権、著作財産権）は一般社団法人日本作業療法士協会に帰属しており、本シートの全部又は一部の無断使用、複写・複製、転載、記憶媒体への入力、内容の変更等は著作権法上の例外を除じます。

生活行為を分析する3つの視点

企画 準備力	生活行為を実施するために、 「いつ、どこで、誰と、何を、どのように」行う のかを企画したり、準備する能力
実行力	実際に実施をするときに必要な能力
検証 完了力	生活行為を遂行しながら、うまく進んでいるか を検証し、間違いや、より良いやり方に途中で 気付いて修正したり、しっかりと完了できたり、 次回の遂行につなげることができる能力

【生活行為向上マネジメントシート】では省略されているが、この分析は非常に重要である

生活行為工程分析＜例＞

合意した目標:『自分の部屋を2日に1回掃除機で掃除する』

企画準備力	実行力	検証・完了力
①今日が掃除の日であると認識する ②実施時間を決める ③掃除機の場所を認識 ④どのようにかけるか考える ⑤邪魔な物がないか確認する	①掃除機を部屋まで運ぶ ②コードの抜きさし ③スイッチを入れる ④掃除機をかける ⑤たまったゴミを捨てる ⑥スイッチを切る ⑦コードを収納する ⑧床の上の物を移動する	①きれいにかけられたか確認 ②安全に行えたか確認 ③疲労度を確認 ④次にする日を認識

③生活行為向上プラン演習シート

生活行為向上マネジメント™

生活行為向上プラン演習シート

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿年齢：＿＿＿歳　性別（男・女）　記入日：H＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

合意した目標	生活行為工程分析	達成のためのプログラム	基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応プログラム
合意した生活行為の目標	企画準備力 PLAN	いつ・どこで・誰が支援して行うか：本人			
	実行力 DO	家族			
	検証完了力 SEE	支援者			
	達　成	【結果サマリー】			

その生活行為を行うときに、必要な能力を列挙する

左に列挙した能力の中には、
①現段階で対象者ができるもの
②現段階ではできないもの
の2つが混ざっている

⇒基本的には②に対するプログラムを考える

MTDLP:生活行為向上マネジメント　マニュアルp22

この著作権（著作人格権、著作財産権）は一般社団法人日本作業療法士協会に帰属しており、本シートの全部又は一部の無断使用、複写・複製、転載、記憶媒体への入力、内容の変更等は著作権法上の例外を除じます。

プログラムの立案

- プログラムは、
  基本的プログラム
  応用的プログラム
  社会適応プログラム　　の3段階で構成する
- できるだけ基本的プログラムに偏らないように注意する

「基本的プログラム」とは

- ICFの心身機能を維持,改善するための練習
- 生活行為に必要な動作,生活行為を要素に分けた練習

例）主に心に働きかけるメニュー

・意識を覚醒させるような刺激

・緊張をほぐすような働きかけ（ﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝ等）

・よく見る、選べる、手を出せる

主にからだに働きかけるメニュー

・関節の可動域を増す準備（ROM ex.など）

・座位、立位のバランス改善・協調性、巧緻性向上練習

・座位や立位で動く練習

「応用的プログラム」とは

- 実際の生活場面を模した、もしくは生活行為そのものの練習
- 基本動作のコンビネーション練習

例）生活活動（ADL・IADL）について

・模擬環境での歩行・屋外歩行・応用歩行・散歩
・模擬環境での実用的トイレ動作・入浴動作
・模擬環境での調理練習、掃除練習、洗濯練習
・生活を彩り意欲を生む練習
・手工芸,作品作り
・書字、日記、手紙

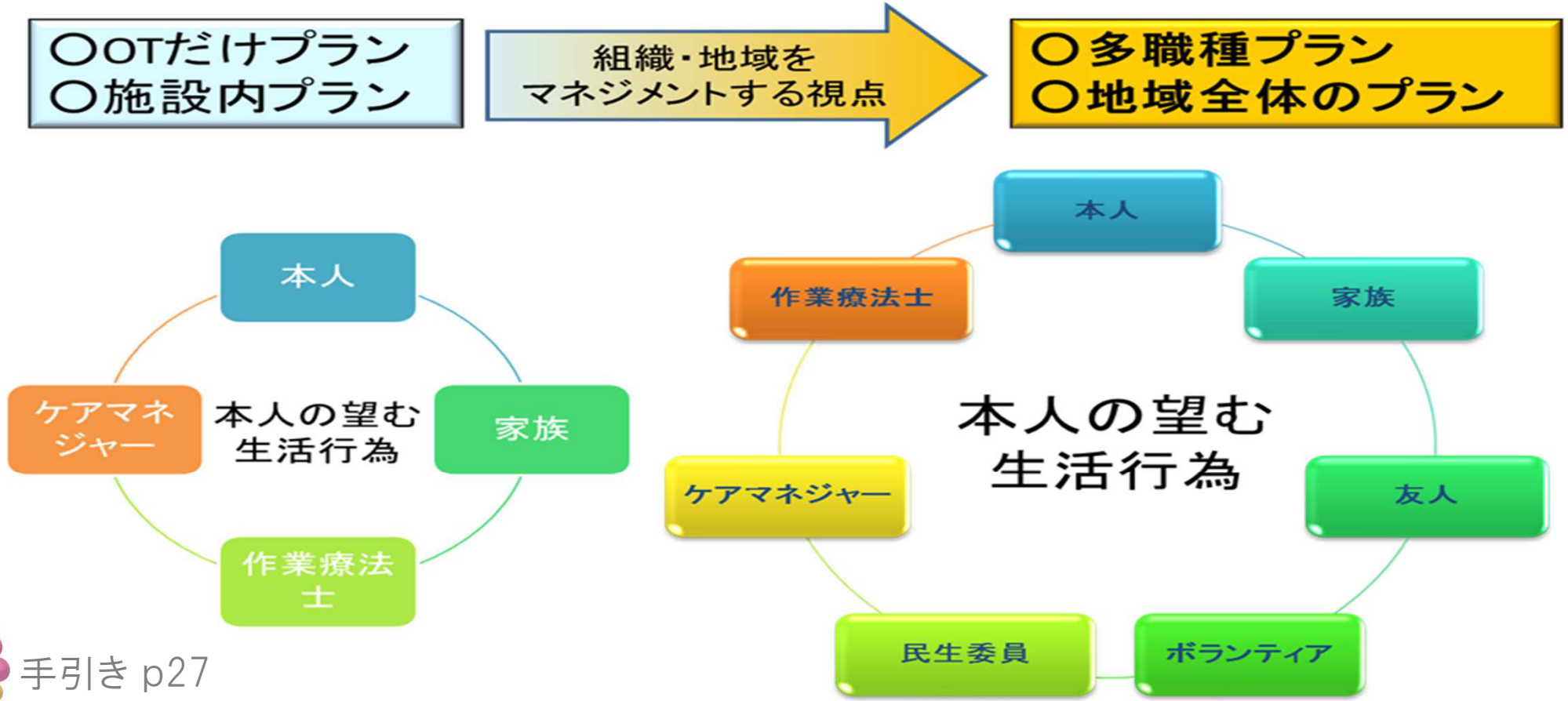
「社会適応プログラム」とは

実際の環境（道具など）のかかわり、人とのかかわり、社会とのかかわりを考慮した本人の望む、本人にとって意味のある、価値のある生活行為を実現するための練習

例）・社会生活の獲得、拡大
・自宅での生活動作の確認や工夫
・外出、外泊の一連の行為
・買い物や郵便局などへの生活拡大
・作品を工夫して大切な人へプレゼントする
・畑作業、盆栽の手入れ等を通した仲間との交流

●プランを立案する際には，対象者が24時間連続して行う生活行為をイメージすることが大切

●施設内のみ・作業療法士だけのプランではなく，地域の中で対象者がいかに生活行為を営むかを想定して，他職種のプラン・地域全体のプランを立案



手引き p27

プラン立案時の大切な視点

- OTが関わる時間は本人の生活時間のほんの一部に過ぎないそのことを念頭に置く
- 本人が取り組む課題も盛り込む
- 「誰が」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」 取り組むのかを具体的に考えて記入する

⑤生活行為課題分析シート

●最終評価

介入後の各種評価結果を選択
初期時の評価結果の選択と同様，プルダウンリストから選択する

●考察

課題に対する介入結果・対象者の変化，その要因について考察する

●今後の課題

課題の積み残しがある場合は，残る課題とその要因，今後の支援計画や必要な社会資源，ケースから見えた地域の課題を記入する

Ⅱ　グループ演習

１．演習事例紹介
２．生活行為聞き取りシートの作成
３．生活行為アセスメント演習シートの作成
４．生活行為向上プラン演習シートの作成
５．発表と解説

演習事例の紹介

演習2：生活行為聞き取り演習シートの作成

1）各自
　事例紹介に書かれた内容を基に
　生活行為の目標をシートに記入してください

2）グループごとに自己紹介
　　進行役を決める
3）これからマネジメントしていく目標を決め
　文言をグループで相談して統一してください

生活行為課題分析シートの確認

1）シートに書かれた事例の基本動作、ADL、IADL・社会参加を確認してください

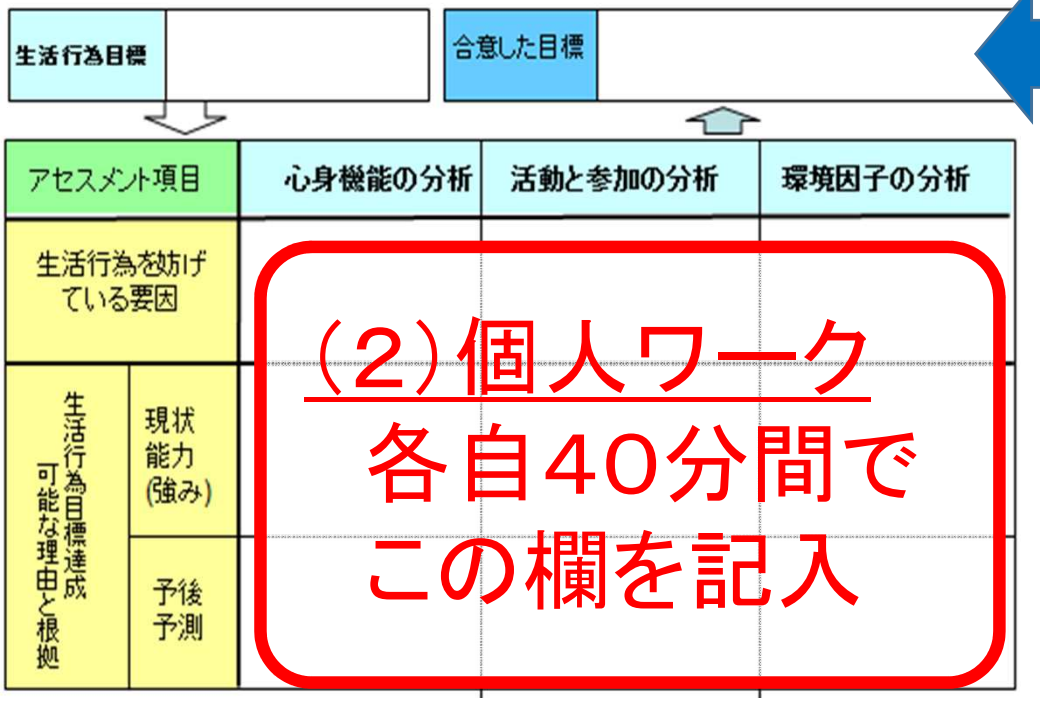
●現状能力　●予後予測（このまま推移・介入後）

2）これからマネジメントしていく目標に関連する行為や改善の可能性のある行為を確認し【課題重要性】に優先順位をつけてください

3）上記結果を参考にしてアセスメントシートを作成します

演習3：生活行為アセスメント演習シートの作成

（1）左上の欄に生活行為目標を記入
（2）生活行為課題分析シートを参考に個人ワーク（40分）
（3）グループワーク（40分）
　①個人で考えた内容を一人ずつ発表（1人5分）
　②それをもとにグループでA3用紙にまとめる
（4）（3）の結果をもとに「合意した目標」を設定する



「合意した目標」は、3か月間で達成できる内容を考え、できるだけ具体的な生活行為を記入する

演習4：生活行為向上プラン演習シートの作成①

まずは、「企画・準備力」「実行力」「検証・完了力」の3つの視点について考えてみましょう

（1）個人ワーク（10分）

考えるためのヒント

○「合意した目標」の生活行為を実際に遂行するときに、どんな能力が必要か？自分が行う工程を参考に考えてみましょう。

○ 事例にとっては、どんな場面や工程が想定されるか？

○ その生活行為を行う前後に必要なことはあるか？　など

（2）グループワーク（15分）

①項目ごとにまとめる

・結果を各自のシートに追記する

・グループ用シートにも記入する（A3用紙）

②の工程内容で事例のできないことを確認する

演習5：生活行為向上プラン演習シートの作成②

達成のためのプログラムを立てる

生活行為工程分析の「できない部分」に対してのアプローチを含め、目標となる生活行為を行えるようになるために要なプログラムを立案してください

考えるためのヒント

○ OT場面以外でも実施できることはないか考えてみましょう
○ 他職種との連携や社会資源を活用することも考えてください
○ プログラムが立ったら,本人,家族,支援者の欄に「いつ」「どこで」誰が関与して行うかを順に記しましょう

（1） 個人ワーク（25分） ※プログラムに番号をつけると良い
（2） グループワーク（30分）
各自発表しながら討議し、A3用紙にまとめてください

５．発表と解説

Ⅲ.事例発表・事例登録に向けて

平成27年7月18日（理事会承認）

新・生活行為向上マネジメント研修制度

一般社団法人
日本作業療法士協会

生活行為向上マネジメント指導者（認定証）

「生活行為向上マネジメント」を実践・推進・指導できる者

1事例　合　格　←　審　査

審査可能確認

事例報告

生活行為向上マネジメント 実践者研修　修了（修了証）

実践者研修修了者であって、以下のいずれか、

- 1事例協会事例報告
- 1事例発表

生活行為向上マネジメントの実践者研修を修了し，概念を理解し、実践できる者

事例検討会

事例発表

◎各士会等で事例検討会（1事例45分を標準.参加者による発表者課題ディスカッション.熟練者等による指導.事例数によって検討会を柔軟に実施）

生活行為向上マネジメント　実践者研修（27時間）

実践者研修２	実　習	1,500分
実践者研修１	事例報告の手引き	120分
	計	1,620分

◎各自の職場における実習

◎事例報告の手引きに沿った自習

生活行為向上マネジメント　基礎研修(7時間)

基礎研修３	事例報告にむけて	30分
基礎研修２	演　習	300分
基礎研修１	概　論	90分
	計	420分

◎都道府県主催研修会
1日研修スタイル
9:00開始
17:00終了

生活行為向上マネジメント 基礎研修　修了証

生活行為向上マネジメントの基礎研修を修了し，概念を理解した者

平成28年度以降

生活行為向上マネジメント研修

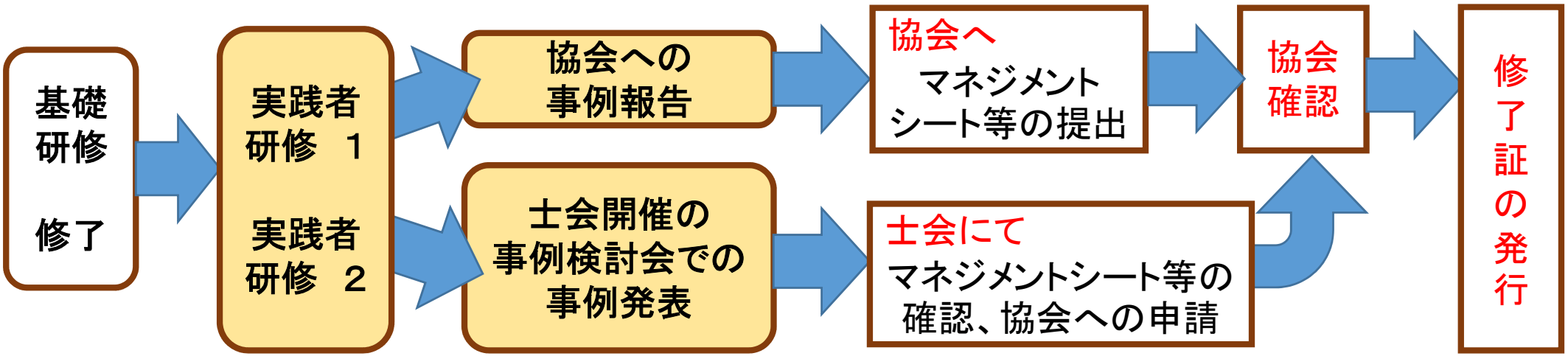
修了（修了証）

基礎・実践者研修を統合する

生活行為向上マネジメントの研修を修了し，概念を理解し,実践できる者

★基礎研修を修了したら、実践者研修へ進んで下さい

実践者研修 1	自習形式	120分	「事例報告の手引き」を熟読
実践者研修 2	実習形式	1,500分 ※	各自の職場にて対象者に実施 ※実施3カ月分　週2回の介入を標準として算出 ①聞き取り・アセスメント・プラン（240分） ②実施1回　記録含め45分×24回　（1080分） ③申し送り・考察・報告まとめ（180分）
	計	1,620分 （27時間）	



★MTDLPの実践前に

●MTDLPの実践は発表や事例報告を意識して取り掛かりましょう。経験を積んで指導者を目指しましょう。
●あなたの実践はまだ誰も取り組んだことのないケースです。経過を写真や動画などで残しましょう。OTひとり一人の実践の集積、効果的な実践報告がMTDLPの発展に寄与します。

★事例検討会に参加しましょう

●事例検討会に参加して、発表内容を通して、MTDLP全体のイメージをつかみましょう。
●事例検討会は身障・精神・小児・医療・介護・・・様々な領域を越えて事例を通して作業療法について話し合い、作業療法の視点を広げる場です。

★事例検討会で発表しましょう

●発表での他会員からのフィードバックは、MTDLPの視点を広げてくれるでしょう。
●発表を終えて、マネジメントシート等の書類を作成、提出すれば実践者研修が修了します。
●事例報告へ進みたい場合、各種評価シートの提出書類があるので報告に必要な書類を実践前にご確認ください。

★事例報告をしましょう

●事例発表をした後、事例報告するもよし、ストレートに事例報告をしてもよし、事例発表、事例報告いずれも「事例報告の手引き」をしっかり読み込むことが重要です。
●事例報告はMTDLP指導者による審査があります。審査は一定の基準で行われます。事例報告の手引きで基準をしっかり踏まえて報告してください。

★MTDLP指導者になったら

●1事例にとどまらず、MTDLPの実践継続に努めましょう。そして2・3・・・と事例報告を重ねてください。真の指導者となれるよう努めてください。

シート類の入手方法

よくあるご質問　お問い合せ　入会案内　English

Japanese Association of Occupational Therapists
一般社団法人日本作業療法士協会

作業療法士って どんな仕事？　作業療法士の 支援を受ける　作業療法士 になるには　広報活動　協会について

特集コンテンツ

幅広い領域で、様々な人と働く作業療法士の姿をお伝えします。

はたらくことは、生きること

ソファに座って話しながら、ゆっくり取り戻した「記憶」

(2015.05.01 update)

はたらくことは、生きることの最新記事を見る

はたらくことは、生きることの過去のアーカイブ

TEAM OT

高い専門性と、チームで協働するコミュニケーションスキル

(2015.05.01 update)

TEAM OTの最新記事を見る

TEAM OTの過去のアーカイブ

私のスタートライン

人の人生やくらしと、ずっと関わっていたい

(2015.05.01 update)

私のスタートラインの最新記事を見る

私のスタートラインの過去のアーカイブ

作業療法士ってどんな仕事？
作業療法士を知る

作業療法士の支援を受ける
作業療法士と協働する

作業療法士になるには？
作業療法士を目指す

刊行物のご案内

協会配布資料一覧

広報誌『Opera』

機関誌『日本作業療法士協会誌』

ニュース＆Topics

2015.05.20 お知らせ　「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を･･･

2015.05.19 お知らせ　第３回　アジア太平洋ＣＢＲ会議開催のお知らせ

関連リンク

認定作業療法士リスト

都道府県作業療法士会

全国作業療法士養成校一覧

シート類の入手方法

▶ 会員向け情報はこちらから

所在地　サイトマップ　個人情報保護方針　このサイトについて

Japanese Association of Occupational Therapists
一般社団法人日本作業療法士協会

Japanese Association Occupational Therapists All rights reserved

〒111-0042
東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光（もりみつしんこう）ビル7階
TEL:03-5826-7871 ／ FAX:03-5826-7872

シート類の入手方法

生活行為向上マネジメント

○ 生活行為向上マネジメントとは？

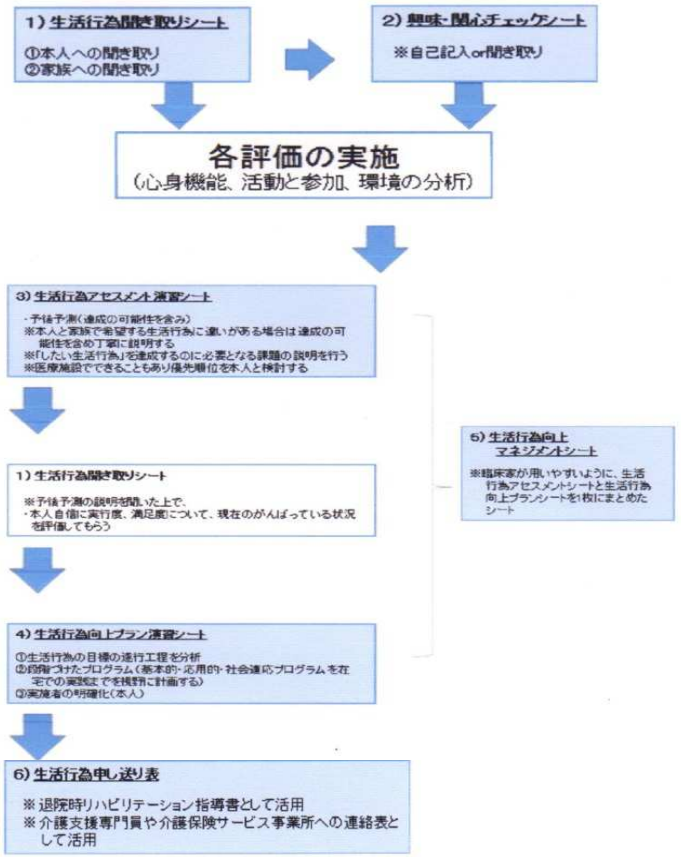
生活行為向上マネジメントについて
（一般向けパンフレット PDF）
生活行為の自立を目指して

生活行為向上マネジメントの位置づけ
（パンフレット PDF）
生活行為向上マネジメントとは

作業療法マニュアル57
生活行為向上マネジメント

○ 生活行為向上マネジメントのプロセス

（作業療法マニュアル57「生活行為向上マネジメント」　１６頁　生活行為向上マネジメントプロセス図Ⅱ－４　一部改変）



○ 第2回生活行為向上マネジメント全国推進会議

○ 「生活行為向上マネジメント」研修と修了証について（お知らせ）

○ **生活行為向上マネジメント　事例登録について**
生活行為向上マネジメントを使用した事例報告の登録が開始されます。
事例報告は一般事例と同様こちらからになります。

事例報告　　2015年7月30日スタート

◆参照　協会HP＞生活行為向上マネジメント＞事例報告登録

1．同意書について
- ▶「同意書　一般事例・生活行為向上マネジメント事例共通」
- ▶「同意説明文書　生活行為向上マネジメント事例」

2．手びきと操作マニュアルについて
- ▶「事例報告書作成の手引き　生活行為向上マネジメント事例」作成書類）
  - ・一般情報シート
  - ・社会資源情報シート
  - ・生活行為向上マネジメントシート（計画と結果を記載）
  - ・生活行為課題分析シート

3．IDとパスワードについて　事例登録に必要

事例発表

各士会にて開催
方法、必要書類は士会ごとに決定

お問い合わせ先
　:各士会　推進委員
　　生活行為向上マネジメント関連の研修窓口

生活行為向上マネジメント研修制度　と　生活行為向上リハビリテーション実施加算要件

生活行為向上マネジメント 実践者研修 修了

基礎研修修了者であって、以下いずれか、
- 1事例協会事例報告
- 1事例発表

事例審査 1
- 審　査
- 事例報告

事例検討会
- 事例発表

◎各士会等で事例検討会（1事例45分.参加者による発表者課題ディスカッション.熟練者等による　指導.事例数によって検討会を柔軟に実施）
◎事例報告への指導や意見交換

生活行為向上リハビリテーション実施加算

現在概ね　350人
生活行為向上リハ実施加算算定の専門的な知識と経験のある作業療法士に該当

条件：1年以内に実践者研修を修了すること

● 生活行為向上マネジメント　実践者研修（27時間）

実践者研修２	実　習 各自の職場	1,500分	①聞き取り・アセスメント・プラン（240分） ②実施1回　記録含め45分×24回　（1080分） ③申し送り・考察・報告まとめ（180分）
実践者研修１	事例報告の手引き	120分	H26プロジェクト委員作成57ページ 事例報告の手引きに沿った自習
	計	1,620分	

生活行為向上マネジメント 基礎研修 修了

● 生活行為向上マネジメント　基礎研修(7時間)

基礎研修３	事例報告にむけて	30分	・生活行為向上マネジメント研修体系の説明 ・事例報告に向けた考え方・取り組み方法
基礎研修２	演　習	300分	①演習事例紹介（30分） ②グループワーク生活行為聞き取り演習（30分） ③生活行為アセスメント演習（120分） ④生活行為向上プラン演習（90分） ⑤申し送りシート書き込み方法説明活用（30分）
基礎研修１	概　論	90分	・生活行為向上マネジメントの背景 ・生活行為向上マネジメントとは ・これまでの研究など
	計	420分	

◎都道府県主催研修会　1日研修スタイル
例）9:00開始 17:00終了

生活行為向上リハビリテーション実施加算 算定　ライン

現在概ね
1,500~2,000人　生活行為向上リハ実施加算算定の専門的な知識と経験のある作業療法士に該当

Management Tool for Daily Life Performance